

経済協力セミナー第 35 回

保護主義に対抗するには

講演者：早藤 昌浩氏 世界貿易機関(WTO) 貿易政策検討部 参事官

文責：永井哲平



講演者の早藤氏は現在世界貿易機関(WTO)において貿易政策検討部参事官を務めており、前職は通産省通商政策局総務課課長補佐を務められた。今回の講演では、保護貿易に対抗するための世界貿易機関(WTO)の役割と活動について

お話がなされた。また、時事問題としてヨーロッパでの経済危機や TPP、FTA についても講演中に触れられた。

国際的な貿易を円滑に行うためには貿易手続きの透明性・予見可能性・公平性の向上や簡略化・迅速化を促進する必要がある。世界貿易機関で実際に行われている政策について行われた今回の講演で、早藤氏は WTO と似た例として TPP が取り挙げた。TPP と比べると、WTO の方が極めて規模が大きく、その特徴として以下の点が存在する。

1. 155 カ国が現在 WTO に加盟している。
2. 世界規模の商品やサービスなどの貿易が自由かつ公正に取引される様な枠組みを作ることを目的として、WTO は運営されている。
3. 保護貿易ではなく、あくまで自由貿易を前提条件とする
4. 全会一致制を採用しており、ある議題について 1 カ国でも反対があった場合、議決されない。
5. 加盟国間で問題が生じた場合、どの国でも公平に訴訟を起こす権利を持ち、WTO にはそのような紛争を解決する機関が設けられている。
6. WTO は加盟国政府の集合体である。

上記以外の点で早藤氏が強調したのは「予見可能性」と「透明性」である。これら二つの向上が WTO の組織の質的向上つなぐと話した。これら 2 つが守られないことには WTO 内の信頼関係も崩れてしまうだろうし、WTO に加盟していない国々に対してもフェアではない。早藤氏の講演を聞いて WTO という組織は組織内の先進国と発展途上国の格差がなく、そのことは自由に商品やサービスが取引できる貿易の世界全体の枠組みを築いていく組織には必要条件である。また、これらのフェアなシステムには弊害も生じている。WTO は、保護主義に対抗するにあたって各国が WTO の定める規則を守るために、貿易や貿易関連の進展についての報告書を定期的に作成し、各国の貿易を監視するためモニタリングを行っている。WTO の原則は透明性の確保であり、モニタリングにより貿易の状況が文書化され公表されれば、該当国は対応せざるを得ないが、法的拘束力はない

<質疑応答のまとめ>

Q. WTO で貿易に関してのルールができてから各国で実行されるまでにはどのような手順が必要か？

A. WTO のルールがそのまま国のルールとして直接適応されるケースもあるが、ほとん

どの国ではそのルールに適応できるように、議会の批准といったステップを踏んで既存の国内法などを整備することで対応する。

Q. WTO は全会一致制を取り入れるなど fair な試みがみられるが、逆にその問題点とは何か？

A. 全会一致制のため決定がなかなかできないこと。そうなる则取り組みが遅くなってしまうという意見もある。

Q. WTO では紛争解決の分野も扱っていて、以前小さな国がアメリカを訴えるというケースもあったというお話でしたが、具体的には？

A. 南アメリカやカリブの国などが綿花補助金の件で訴えた事例があったと思うが、全て正確に覚えている訳ではないため WTO のホームページを参照のこと。

Q. 一般的にいう“弱い国”の不利益を保護するためにどのようなことをしているのか？

A. **Special & different obligation** という途上国への配慮もしている。また、WTO では地域統合を禁止することができないため、モニタリングという形でどこが地域統合を行っているのかりサーチし明らかにしようとしている。とはいえきちんと報告してくる国はまだまだ少ない。

Q. 例えば日本の農業など保護しなければ国内産業が危険だという意見もあるが、そのあたりはどう考えるか？

A. 保護するだけでは発展する見込みも生まれないので、「保護しないと衰退してしまう」というのは少し違うと考える。農業の場合、天候や土地によって左右されてしまうため、特別に **special safe guard** というものが存在し、天候などによる影響を受けたときは関税を上げてもいいことになっている。

Q. 紛争解決は 2004 年の時点で解決されていないものが 120 件あったというお話でしたが、今もまだ解決されていないものはどれくらいあるか？

A. ほとんどのケースは、パネルに上がってから半年ないし 1 年くらいで解決されるので、だいたいのはすでに解決されている。これもホームページ参照のこと。

Q. 将来 WTO に入りたいと考えていたら、学生のうちに何をすれば良いか？

A. 語学!! とにかく今できることをやる。語学（公用語は英語・フランス語・スペイン語）を十分操れるようにしておく必要がある。また、なんでもよいが興味のある分野の文章などを読んで、“書く”という能力を養っておくのも有効。

Q. ロシアが WTO への加盟申請を行ってから実際に加盟するのに 18 年もかかったのは

なぜか？

- A. 加盟するための審査基準というものがあり、加盟には既存の協定をすべてクリアし、かつ現加盟国の同意も必要なため、国際関係などの問題も関わってくる。そういった事情があったから加盟が遅れたのではないか。

WTO が実際に行っている活動について行われた今回の講演は、世界貿易機関の業務や経済的な危機のなかでの役割について詳しく知ることのできるとても貴重なものであった。質疑応答もさかんに行われ、TPP のような時事問題に関するものも多く見られ、ますます学生の国際経済への関心を向上させたに違いない。国際経済に意識の高い学生にとって、非常に刺激的であり、貴重なものであった。講演終了後、自主的に講演者へ質問をする学生の姿も多く見られ、関心がおおいに高まったことがうかがえた。